

ナシ流線型仕立の開発

ナシ産地では植付け 50 年以上の老木が多く生産性が低下しています。また近年、消費者ニーズの変化に伴い新品種の導入が迫られています。しかし、ナシは植え付けて成園まで年数がかかることから、改植が進んでいません。そこで、今までの栽培方法を見直し、大苗を植え付けて3年で成園になる技術を開発しました。

☆ 技術の概要

1. 流線型仕立では、4.5m を超える大苗を使用し植え付け後3年目には早急な成園化が可能となります。
2. 既存の果樹棚を利用し、簡易な主枝ラインを設置するのみであることから投資金額を低減できる新技術です。
3. 実際の手順としては、全長5mほどの大苗を、専用の施設で大量生産し、12月に掘上げた大苗を圃場まで運びます。そしてこの大苗を圃場に3.5m×2.5mの間隔で、主枝を45~60度に傾けて植えます。植付け2年間は、さらに側枝を十分生長させ、3年目に側枝上の果実を収穫します。



図1 植え付け3年目「あきづき」開花状況

図2 植え付け3年目「あきづき」結実状況

☆ 活用面での留意点

1. 植え付けから2年間で樹を育て上げるので、3年目で目標収量を達成し成園となります。10a当たり成園収量は「なつしづく」が3t、「あきづき」が5tです。(10a当たりの植え付け本数：114本)
2. 詳細については、大分県農林水産研究指導センター 農業研究部 果樹グループ ナシ・ブドウチーム（電話：0978-37-0149 電子メール：fukuda-kenji@pref.oita.lg.jp）にお問い合わせください。

(果樹研究所 企画管理部 研究調整役 岩波 徹)